

たけま

# ②岳間地区 (山鹿市鹿北町)

◆農家戸数 160戸  
◆農地面積 210ha  
(水田:79ha、畑:131ha)



お茶香る山里岳間の未来へのチャレンジ! ~地元の宝を磨き上げてステップアップ~

## [中山間農業ビジョンの概要]

### 集落の課題(現状)

- 農業の魅力不足、若者の地域離れ
- 岳間の農作物の認知度が低い
- 担い手が地域内で確保出来ない
- 耕作放棄地の増加
- 集落機能の低下、存続の危機
- 鳥獣被害が深刻

### 目指す将来像

- 新規茶種(碾茶・抹茶)による活性化
- 水田・茶園の整備、大型機械の導入
- 耕作条件改善で、高単価作物を導入
- 営農組織の経営安定・労働力確保
- 認知向上による交流人口の増加

### 具体的方策

- 所得の確保  
(碾茶生産、栗の改植、ホオズキ導入、加工品、鳥獣被害対策)
- 担い手の育成  
(ワーキングホリデー、栗の剪定受託組織の育成)
- 基盤整備の実施  
(棚田・茶園の区画整理、耕作道・用排水路の更新)
- 岳間の認知向上(SNS活用、特産品PR、ほっと岳間の活用)

## [ビジョン策定のプロセス]

### ビジョン策定以前

◆平成25年、岳間小学校閉校。交流施設「ほっと岳間」として活用決定。後に農業ビジョンの拠点として活用される。

◆平成27年、山鹿市の創生事業により農業ビジョンを策定。  
◆観光プラン調査も実施。

これらの事前の取り組みにより、「岳間の活性化」という目標設定、ビジョン策定の基礎、活動拠点が準備されていた。

### 活性化協議委員会の設立

◆茶業従事者を中心とし、以前のビジョン策定のメンバーを加えて構成。  
◆以前2度のビジョン策定の経験があり、かつメンバーも重なっていたため、組織化もスムーズに行われた。

地元自治会	区長3名
地域営農組織	(農)岳間の村上維持営農組合
茶店舗	古田製茶 藤本製茶 岳間製茶 東茶舗
JA鹿本	茶生産部会
NPO法人	岳間ほっとネット
観光組合	岳間渓谷観光組合
山鹿市	地域おこし協力隊
学識経験者	1名(会計)

### 農業ビジョンの策定

◆平成29年8月～9月にワークショップを3回実施。協議委員会、区長、分館長という構成で、下記のテーマで実施。

- ▶第1回:集落の現状と課題
- ▶第2回:集落の活性化策
- ▶第3回:農業ビジョン作成

◆ワークショップと同時に現地調査実施。

◆ワークショップのまとめ、現地調査結果などを元に、協議委員会において目指すべき方向性と具体策の確認。

◆平成29年10月、各集落において最終確認。すべての合意を得る。

### 優先順位の合意形成

◆優先順位決定表を作成。  
◆協議委員会と市職員が、すべての要望について現地調査。

◆現地調査の段階で、要望の採択、優先順位付けについて現地の合意を取り付け。

普段からの住民同士のつながり、リーダーへの信頼が合意形成に役立った。



活動拠点『ほっと岳間』

## ②岳間地区(山鹿市鹿北町) お茶香る山里岳間の未来へのチャレンジ! ~地元の宝を磨き上げてステップアップ~

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度): ①碾茶の栽培を2ha以上増加 ②ホオズキ作付を10a増加 ③ワーキングホリデー1回以上実施

### 1. 所得の確保

- ◆耐寒性早生品種への新植・改植や碾茶の生産。
- ◆クリ老木の改植や観賞用ホオズキの導入。
- ◆新たな加工品等の開発(クリの甘酒・茶の加工品等)。
- ◆鳥獣被害防止対策を実施。



- ◆新種茶葉の生産体制は、2~3年で目標の2ha確保の予定。
- ◆栗の付加価値化、ホオズキの導入はスタート。収益アップに期待。
- ◆おせち、栗のペーストや甘酒などを開発中だが、人材不足で足踏み状態。
- ◆鳥獣被害防護柵は破れや重複があるため、見直し・修繕の必要がある。

### 2. 担い手の育成

- ◆ワーキングホリデー等により担い手の確保。
- ◆クリの剪定作業受託組織の育成。

西岳農林ロマン部会  
による栗の剪定



- ◆平成30年度、令和元年度、熊本県立大学と連携し「農業インターンシップ」を実施。しかし、ワーキングホリデー実施にまでは至っていない。
- ◆地域の若者で作った「西岳農林ロマン部会」が栗の剪定作業を実施。剪定によって栗の粒も大きくなり、収益増が期待されている。

### 3. 基盤整備の実施

- ◆棚田3、4枚を1枚にまとめ、約20区画へ。
- ◆耕作道の整備、用排水路の更新。
- ◆茶園の新規造成(5区画)、区画整理(5区画)。
- ◆乗用型摘採機の導入。



区画整備前の水田



整備後、広くなった水田

- ◆田畑区画整備は、平成29年度、30年度、令和元年度と順調に推進。大型機械の導入箇所を増やしている。
- ◆茶園整備も平成30年度1箇所、令和元年度1箇所実施。初年度区画はすでに栽培しているが、収穫は3年後。

### 4. 岳間の認知度向上

- ◆SNSを活用し、情報発信チャンネルを拡大。
- ◆筍、クリ等の特産物をPRし、都市農村交流を図る。
- ◆ほっと岳間を活用し、清流文化の形成を図る。



マママルシェの開催

- ◆「岳間ほっとネット」のFacebookページを開設。
- ◆年4回、「マママルシェ」を開催。1回に400~500人の来場者がある。
- ◆「岳間ほっとネット」の活動が、対外的に評価され受賞した。

[成果と今後の展開方向]

### 1. 全体的な成果

- ◆田畑・茶畑ともに、平成30年度から令和元年度にかけて基盤整備を着々進行。
- ◆熊本県立大学との連携で「農業インターンシップ」を実施!
- ◆「岳間ほっとネット」の活動が、高い評価を獲得。

岳間ほっとネットの活動が  
総務大臣賞受賞



### 2. 今後の展開方向

- ◆変化するお茶の需要。求められる需要変化への柔軟な対応!
- ◆茶園整備拡大の限界。
- ◆「農業インターンシップ」の受け入れ体制の整備。
- ◆人材不足で商品開発が足踏み。
- ◆耕作放棄の加速。耕作放棄地の扱いも課題。
- ◆鳥獣防護柵の見回りと改善。



県立大の農業インターンシップ